

# ニホンザルの生態

## 分布と生息環境

本州，四国，九州の屋久島まで全国に分布する。その範囲は東日本で拡大傾向にある。東北地方では，かつては狩猟圧や冬の厳しさのためサルの分布はまだらであったが，近年は，分布の空白地帯へ再進出しつつある。サルの本来の生息環境は，東日本では落葉広葉樹林，西南日本では常緑広葉樹林である。

## 繁殖と行動特性

農作物を食べていない野生のサルは6～7歳で初産をむかえ，3～4年に1回1頭を出産する。赤ん坊の死亡率は高く，個体数の増加は低い。一方，餌付けや農作物採食などにより栄養条件が良い場合は，初産年齢の低下（5～6歳），1～2年に1度の出産，赤ん坊の死亡率の低下などから，個体数の増加率が高くなる。

メスの成獣と子どもを中心とした数10頭～100頭程度の群れをつくる。オスは4，5才くらいから生まれた群れを離れ，他の群れに入るか，ハナレザルやオスグループとして生活する。したがって，ハナレザル以外のメスと子どもは基本的に群れで行動する。群れの頭数が100頭前後になると，分裂する可能性が高くなる。また，被害軽減などを目的として捕獲を行った場合にも，群れの分裂が起きることがある。

サルは，危険な時は高い所に逃げる習性を持つため，本来は森林から遠く離れることは少ない。しかし，人馴れが進んだ個体は林縁から100～200mほど離れた農地にも出没するようになる。

## 食性と農作物被害の特徴と痕跡

サルは雑食性で，植物の果実，種子，葉，芽のほか，昆虫なども食べる。人と同じ単胃動物のため，栄養価や消化率が高く効率的に食べられる食物を好む。餌となる食物は，遺伝的に決まっているわけではなく，生後に学習する。

また，カキ，カボチャ，スイカ，トウモロコシ，クリ，モモなど甘くて栄養価の高いものを好む。被害初期は，このようなサルが好む農作物だけが狙われることが多い。しかし，農地を餌場として利用するうちに餌の種類を学習し，次第にその他の多くの農作物（イネ，マメ類，イモ類，ネギ，キュウリ，ナス，ダイコン，トマト，イチゴなど）の味を覚えていくため，被害対象農作物は広がっていく。最後まで食べられにくい農作物としては，トウガラシ，コンニャク，サトイモ，ゴボウなどが挙げられる。

農地周辺で見られるサルの痕跡としては，足跡，カボチャやダイコンなどに残る食痕がある。また，サルは主に日中に活動するため目撃されることが多い。



糞



サルによる引き抜き被害

以上の内容は「野生鳥獣被害防止マニュアル(イノシシ、シカ、サル) - 実践編 - 」(平成19年3月農林水産省生産局発行)から引用しました。

## 県内の生息状況

県内に生息するニホンザルの群れは33群であり、群れ外オス(約200頭)を含めた総頭数は約1,920頭です。

加美町の大倉山と鬢櫛山にかけての一带に3群(約110頭)、仙台市と川崎町にまたがる面白山と大東岳山系東斜面一带に11群(約580頭)、七ヶ宿町に7群(約360頭)、白石市に3群(約120頭)、丸森町に2群(約100頭)、旧松山町と旧鹿島台町にまたがる丘陵地帯に1群(約60頭)、金華山に6群(約240頭)が生息しています。(調査時にカウントされなかった群れ追隨オスは推定で150頭)

## 県内の農作物被害状況

平成19年度野生鳥獣による農作物の被害状況調査の結果、被害金額は2,237.9万円で、調査を始めた平成3年(150万円)と比較すると約15倍にまで増加しています。

市町村別では、被害金額の大きい順に、白石市、七ヶ宿町、丸森町、加美町、大崎市、仙台市となっています。

作物では、野菜(1,583.9万円)、稲(263.9万円)、飼料作物(153.5万円)、果樹(107.6万円)などが被害を受けています。